

白川八幡神社

白川八幡神社は、白川村荻町の主な神社です。非常に古くからの起源をもつと考えられていますが、正確にいつ建てられたのかはわかっていません。白川八幡神社が最初に歴史の記録に登場したのは、17世紀に内ヶ島氏の代わりに荻町を統治した武将の山下氏勝（1568年～1653年）によって再建された時のことです。白川八幡神社と武士の守護神である八幡神との関係は、この時期にまでさかのぼると考えられています。また17世紀からは、本堂の隣の釈迦堂に仏像が祀られています。この仏像の存在は、現在では別々に考えられている神道と仏教が、日本で1000年以上にわたりどのように密接に結びついてきたかを示すものです。また本堂の反対側には、毎年冬に神社のお神酒が醸造される神酒殿があります。このお神酒は、10月14日と15日に農業シーズンの終わりを祝い、収穫を神に感謝するために毎年開催される「どぶろく祭り」で、地元の信者と訪問者たちに提供されます。